

銀賞 尾口晴基君

室蘭工業大学建設システム工学科 湯の輪

隠れ家設計士と呼ばれているらしい僕にとって、「湯の輪」は現実的でもあり、又、同時に非現実的でもあった。全体にリンクする埋没された建築は自然と湯と人との相関をテーマにしたものだった。実直で本来の建築の役目を素直に表現した素晴らしい作品である。豊かさとは、行方のないプログラムなんかよりずっと役に立つ。そして人を幸せにするものだと思う。あまりにも過度の操作をされた作品に刺激は受けるものの、なんの感動もない。それは一過性にすぎない事を我々は知っているからである。そんなムーブメントの中で、あえて単純に豊かさを求めた作品である。

(文責：中山 眞琴君)

